別紙

令和４年度
全国学力・学習状況調査
指導方法等の改善計画

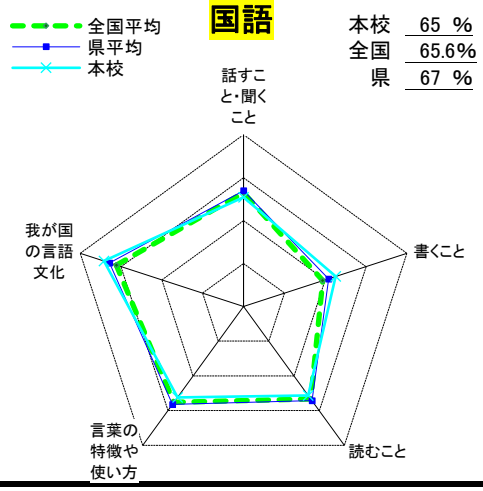
呉市立郷原小学校
（郷原中学校区）

全国平均値との差

	国語	算数	理科
呉市教育振興基本計画〈指標〉	＋６．０	＋５．０	
令和８年度	－	－	－
令和７年度	－	－	－
令和６年度	－	－	－
令和５年度	－	－	－
令和４年度	－０．６	－５．２	－２．３

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組　　◎･･･各学校　◇･･･中学校区

国語



本校　65 %
全国　65.6%
県　67 %

重点課題

◎　表現の効果を考えることに課題がある。(設問２三)【読むこと】(全国平均との差　-8.3%)
◇　表現の技法について理解したり，表現の効果について考えたりすることに課題がある。

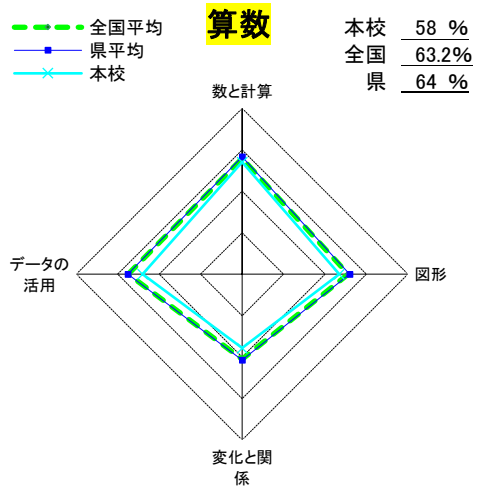
改善の方策

◎　全校で，文章読解スキルのような問題を週に２回，帯タイムの時間に行う。短時間で取り組み，答えの導き方を指導し，解説を行うことを繰り返す。
◇　言葉の文章中での効果について考え，そう考えた理由を付けて表現するような活動を設定する。また，語句の技法的な表現についても捉えさせ，文章中での効果や価値を考える活動を設定する。

検証

◎　標準学力学習状況調査（２月）の「読むこと」の項目の正答率の全国平均との差を-２%以内にする。(第６学年）→（+0.5%）
◇　標準学力学習状況調査（２月）の「読むこと」の項目について，全学年それぞれ，昨年度の平均値より２ポイント上回る。(全学年）→1 年（+1.3）２年（+1.6）３年（+2.6）４年（+3.1）５年（+3.9）3，4，5 年生では目標を達成し，全ての学年でプラス評価になった。

算数



本校　58 %
全国　63.2%
県　64 %

重点課題

◎◇　与えられた図やデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え，考察することに課題がある。中学校（設問７（２）全国平均との差-9.2%)，小学校（設問３（２))（全国平均との差　-14.8%)【データの活用】

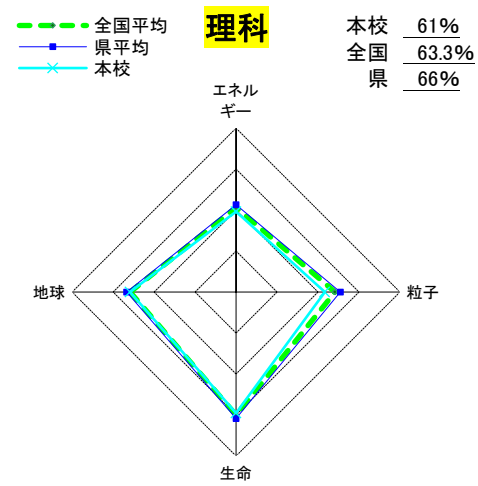
改善の方策

◎　算数の単元だけではなく，社会や理科，総合的な学習の時間等でも，資料から分かることを読み取る学習や，資料をグラフ等に直す学習を意図的に仕組む。
◇　身のまわりにあるデータを読み取ったり，図に整理したりする活動を設定する。また，複数のデータを比較し，その特徴や傾向を数学的な表現を用いて説明する活動を設定する。

検証

◎　標準学力学習状況調査（２月）の「活用」「図形」の項目の正答率の全国平均との差を-２%以内にする。(第６学年）→活用（－11.5）図形（－7.2）未達成
◇　標準学力学習状況調査（２月）の「活用」「図形」の項目について，全学年それぞれ，昨年度の平均値より２ポイント上回る。(全学年）→それぞれ「活用」「図形」の平均に対する得点は，１年（－0.4，－2）２年（+9.9，図形なし）３年（+7.4，+11.1）４年（+4.8，+10.7）５年（+1.1，－0.5）2，3，4 年生では目標を達成した。

理科



本校　61%
全国　63.3%
県　66%

重点課題

◎　メスシリンダーという器具を理解することに課題がある。(設問２（１))【粒子領域】(全国平均との差　-16.9%)
◎　問題に対するまとめを導きだすことができるように，実験の過程や得られた結果を適切に記録することに課題がある。(設問３（２))【エネルギー領域】(全国平均との差　-14.4%)
◇　得られた実験結果から何が分かったのか，それを分析，考察し，表現することに課題がある。

改善の方策

◎　課題把握や実験方法，結果と結論を話し合いながら確認し，授業の過程を大切にする課題解決授業を行う。器具名や使用方法を繰り返し確認したり，フラッシュカードを作成しミニテストを行ったりするなどの練習を行う。
◇　課題を解決するために行う実験を自分たちで計画し，得られた結果をもとに，分かったことを自分の言葉や文章で表現するという学習のサイクルを日常化していく。

検証

◎　学年で使用する器具の名称や使い方に関する確認問題（自作）の正答率 70%の児童の割合を 80%にする。(第 3～6 学年　３月）→　６年　80.3%
◇　学年末活用テストの正答率 70%の児童の割合を 80%にする。(第 3～6 学年３月）→　６年　83.9%　いずれも目標を達成している。

【来年度に向けて】標準学力調査の「標準スコア」を国語科・算数科とも上回ることを目標とする。テストの時期を 12 月に行い,結果分析を３学期に生かせるようにする。国語科においては「活用」,「話すこと・聞くこと」の項目について，全学年それぞれ平均値を上回る。(全学年）算数科においては,「活用」「図形」の項目について，全学年それぞれ，昨年度の平均値を上回る（全学年）ことを目標とする。